

令和元年 8 月 1 日

経済情報研究会開催のご案内

岐阜聖徳学園大学経済情報研究所および大学院経済情報研究科による研究会を下記のとおり開催いたします。今回は「数理・データサイエンス」に関する研究会です。ご関心のある方は、是非ご参加ください。

記

日時 令和元年 8 月 21 日（水） 16 時 00 分～17 時 00 分
場所 岐阜キャンパス 3 号館 4 階 3 4 6 演習室

プログラム

- 16 : 00～16 : 10 講演①「経済情報学部における数理教育
ー数理・データサイエンス教育を見据えてー」
齊藤善弘（経済情報学部 教授）
- 16 : 10～16 : 30 講演②「マーケティング分野におけるベイズモデリング」
山田浩喜（経済情報学部 専任講師）
- 16 : 30～16 : 50 講演③「テキストアナリティクスとデータ分析の関わり」
山本英子（経済情報学部 教授）
- 16 : 50～17 : 00 研究討論

主催：岐阜聖徳学園大学経済情報研究所
共催：岐阜聖徳学園大学大学院経済情報研究科

以上

【講演情報】

講演①

「経済情報学部における数理教育 ―数理・データサイエンス教育を見据えて―」

要旨

数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムは「数理・データサイエンス教育の現状に関するアンケート」を2018年9月27日～10月31日に全国の国立、公立、私立等の全大学（788校）を対象として実施、その結果報告書が2019年2月4日に公表された。講演では、この報告書の内容と他大学の数理・データサイエンス教育カリキュラムを参考にしながら、本学経済情報学部における数理・データサイエンス教育の実現可能性について述べる。

講演②

「マーケティング分野におけるベイズモデリング」

要旨

マーケティング分野では、個別対応型マーケティングを **One to One** マーケティングと呼び、昨今注目されている。 **One to One** マーケティングを実現するためには、顧客個々に関する詳細な情報（高次情報）が必要となる。高次情報をデータから抽出するには、顧客の異質性に配慮可能なモデルを構築しなければならない。ベイズモデルは、異質性を考慮した統計的モデリングの一種であり、昨今のマーケティング領域では、主たる研究手段の一つになっている。

講演③

「テキストアナリティクスとデータ分析の関わり」

要旨

私は自然言語処理という分野に分類されるテキストアナリティクスに関して主に研究している。今回は、テキストアナリティクスとは何か、そしてデータ分析との関わりとその変化について講演する。また、テキストアナリティクスではどのような処理にどういった統計知識が必要で、分析結果として得られた統計的結果をどのように解釈するかを紹介し、現在のデータ分析にも関わる、求められている技術について考える。